

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

創刊号

そこに山があり 川が流れていた

私が大東市を好きになった理由

為則泰明さん
ため のり や す あ き

市民学芸員REPORT創刊号のトップは為則泰明さんへのインタビューです。題して「わたしは市民学芸員」。

・大東市にはいつごろからお住まいですか。

3年ほど前からです。前は大阪の住之江区でした。住まいは、鉄筋コンクリートだらけの団地でした。あのあたりでもいろんな講座はあったでしょうが、仕事をしていて受けたことはなかったです。

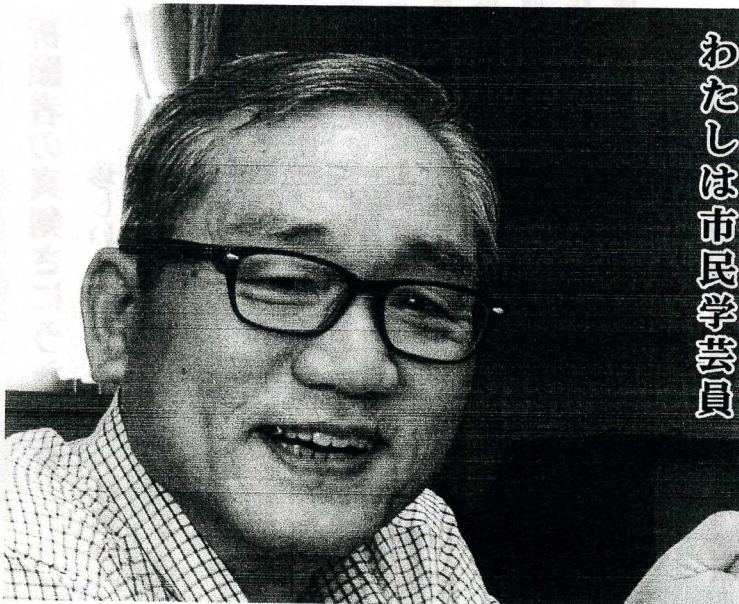
・それで、なぜ大東に？

たまたまです。来て見て最初に、家のすぐ近くに水路や川があり感動しました。ふとしたところに小さな水路があり、身近な所に川が流れているのです。あまりきれいではなかったですが。また山が近いですし、何よりも飯盛山に歩いていけるといのが魅力でした。引越してきたときは自転車で市内を一巡しました。

・講座受講のきっかけは？

こちらに来てアクロスでの講座を知り、うけたことで河内湖や深野池のことを知り、徐々に興味がわいて来ました。古墳群をはじめ古い時代のこ

わたしは市民学芸員



大いに語る為則泰明さん（南新田在住）。最初のうちは馴れない聞き役に戸惑われがちでしたが、すぐにご覧のとりの雰囲気でお話がはずみました。

と、特に笠井館長のお話を聞いていて、歴史って深くおもしろいと思ったし、知らないことがどんどんわかってきて、楽しかった。

それから、隣の四條畷で数年前に発掘された「田原レイマン」の墓碑をみたときも衝撃を受けました。河内キリシタンと飯盛城や三箇城の戦国武将たちのことは特に興味深いです。ただ「野崎観音」がキリシタンと関係がある、という説は私としてはよくわか

りません。ルイス・フロイスの「日本史」にも出てくる堺から飯盛への移動ルートも気になります。どこから船に乗り込んで、どこで降りたかをたどってみたいくなります。

・1年間「市民学芸員講座」を受講されました。

文化財の定義などにも法的な枠組みがあるということは驚きでしたし、古代史の意外性や奥深さ。古墳ひとつからでもその社会的な背景がみえてくるということなど。それまで未熟な文化だと思っていたけど、意外にハイレベルな文化であったり社会であったり。

それから、実際に文化財を手にとったり扱い方を勉強したり、ワクワクしながら受講しました。

・今回の絵馬の調査や借用作業に関わってみていかがですか？

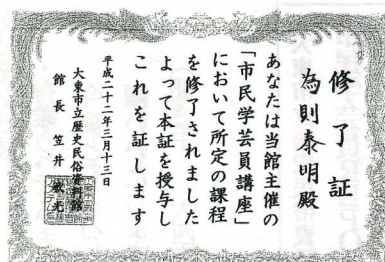
まだまだ絵馬の歴史などの理解はできておりません。これからです。ただ絵馬の借用、取り外し作業などは、前職で

(次頁につづく)

大東市に
 市民学芸員
 誕生・活動中
 今年5月から

市民学芸員とは「市民学芸員講座」を平成21年4

月から1年にわたる受講し、基礎知識を身に付けた資料館の専門スタッフです。講座のなかでは講義とともに実際に文化財資料に触れ、その扱い方や見方もあわせて学習してきました。



今年5月から本格的に始動し、特別展にむけ神社や絵馬の調査を中心に活動を展開し、今回が最初の仕事です。

わたしの好きな気になる 市民学芸員 おすすめの 絵馬

絵馬は古代から続いてきた人々の営みの一つです。現在大東市内にも江戸末期からのものが二百点近く残されています。その中には、大東にしかないと思われる珍しい図柄のものもあります。

今回の絵馬展には、四十五点の絵馬が展示されています。これらの絵馬の前で目を凝らし耳を澄ますと、遠く先人達の生活と人々の息づかいが聞こえてくるようです。

そこで、絵馬展のお手伝いをする事になった、私たち市民学芸員が「おすすめする絵馬」「気になる絵馬」として幾つかを紹介致します。



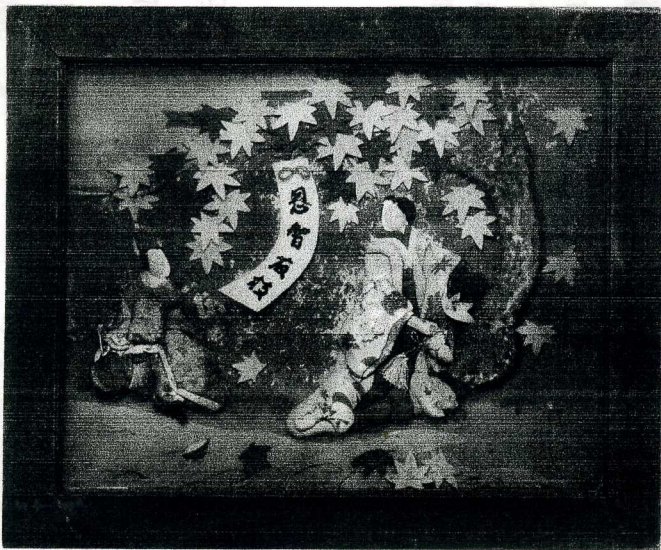
祈願者の真剣さにうたれる

珍しい 能楽からの「紅葉狩」

上野 繁（氷野在住）

私の旧友に山本順之氏というNHK古典芸能にも出演していた「観世流シテ方」の能役者がいます。そのような関係で、絵馬「紅葉狩」は一目見て興味がわきました。この絵馬は能楽を主題にし、明治期に流行った押絵の手法で作された数少ない絵馬で、地域の素晴らしい文化財です。

大切に保存すべき品です。能楽「紅葉狩」は観世小次郎信光作の切能（五番目物）で、一日の最後に上演される曲です。切能は鬼・天狗・天神・雷神など異界のものを扱った曲（能楽）です。粗筋は平維茂主従が信濃の国戸隠山中へ鹿狩りに行き、上臈女房に化けた鬼女たちの酒宴に出会



「紅葉狩」押絵 「戸隠山中の場」
大きさ 58×47.5
奉納年 明治22年9月 御供田八幡神社

（前頁からつづく）
それと似たような作業をやっていただけなのでお役に立てます。

・どおりで脚立の上で慣れておいでのようでした。今後どんなことをやってみたいですか。

水路を含めた交通路の歴史や、河内ギリシタンや飯盛城のことなどを調べてみたいです。これは願いですけど、昔の駅のようなすがわかなような模様など、イメージしやすい、辞退するも誘われて幾杯を重ねて酔い伏せる。本性を顕した鬼女たちに襲われる寸前に、八幡神のお告げを受け、目覚めて鬼女たちを退治する、一時間二十分の能楽です。謡曲上達の祈願でしょうか。八幡神の神威が示されている絵馬を八幡神社に奉納した事柄も、祈願者の真剣さが伺えます。

いものを作ってみたい。昔の風景を小さな世界のなかで復原してみるのもおもしろいです。

これからもいろいろな活動に参加し、見聞を広めたいと思います。

・有難うございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

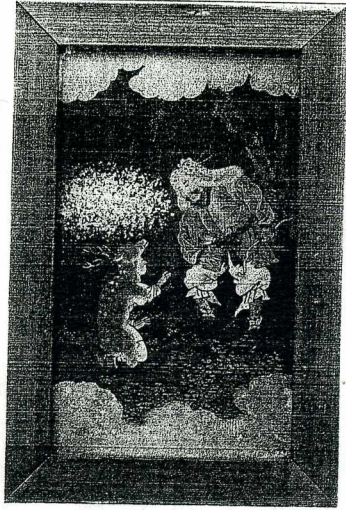
（聞き手 大西京子）

大東市立歴史民俗資料館
市民学芸員REPORT
第1号です

「市民学芸員REPORT」の第1号・創刊号をお届けします。市の「資料館」の活動をお手伝いしながら、市民の目線で紹介し、自分たち自身の互いの励みの場にもなればと思います。
次号は来年四月を予定しています。

今号の編集スタッフ

責任者 中西 昭治
松井 健一
水永八十生
事務局 大西 京子



二十四孝の内、刺子 坐摩神社
大きさ 30・5×45・5
奉納年 不明

彼の年老いた両親は両眼を煩い目薬になると云って鹿の乳を望んだ。そこで、彼は鹿の乳を得るため鹿の皮を着て鹿の群れの中に紛れ込むとした。
ところが彼を見た獵人は本当の鹿だと思い弓で射ようとした。びっくりした彼は「私は本当の鹿ではありません」と叫んで、その理由を獵人に話してやっと許された。これも日頃の孝行のため助かったという。

親孝行にあやかりたい

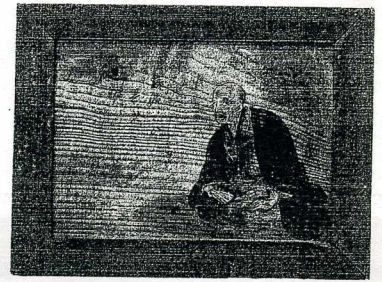
岡島 怜子 (川中新町在住)
二十四孝の内、刺子

市民学芸員
わたしの
おすすめの
好きな
絵馬

歌に秀でた人を描いて

和歌向上祈願図

上野 繁 (氷野在住)



和歌向上祈願図 南條神社 奉納年 明治
2年6月 大きさ 33・4×24・7

大阪の住吉大社・明石の柿本神社・和歌山の玉津島神社が昔から「和歌三神」とよばれている。能楽「雨月」では、西行法師が住吉詣での途中に住吉明神が現れ、和歌の極意について語る場面がある。
一般には三十六歌仙など歌に秀でた人を絵馬に描き奉納して、和歌向上祈願をすることが多い。

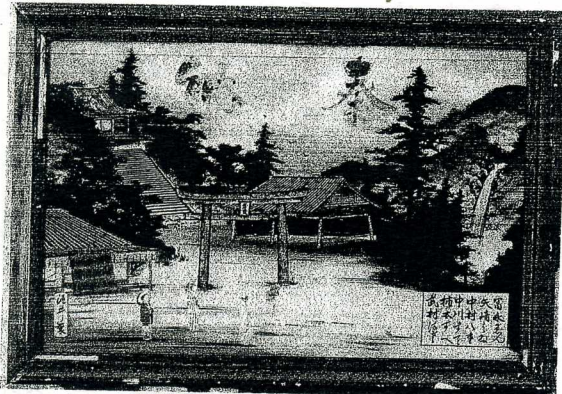


心道の絵図 (部分) 御供田八幡神社
大きさ 93×68 奉納年は不明

当時の写真を上回る

繊細なガラス絵

氏原 稔夫 (緑が丘在住)



須濱大明神境内図 須波麻神社
大きさ 104・3×74・3 奉納年 明治43年10月

善悪の価値観を

絵解き風に

心道の絵図

水永八十生 (平野屋在住)

中央に「心道辻」の道標が立ち、その右側には「道横行人ばち當」、左は「道まっすぐ行人福當」とあり、奉納当時の社会の価値観が具体例で描かれている教訓的なものは珍しい。
罰が当たることを三味線のバチが当たり、福がくることを天界から小判が降ってくる絵柄にしたりと善悪の教えを絵解き風にし当時の人々に広めようとしたものであろう。

当絵馬はガラスに描かれたもので、螺鈿技法風に描いた階段・石垣は見事なものである。また、屋根瓦、樹木の繊細な描写は当時の写真技術を上回る程の描かれた。

ガラス絵とは、ガラス板に絵を描き裏から見る。普通の絵とは仕上がりが逆で、仕上げの部分から先に描き始める。
十八世紀から十九世紀に西欧で広まり、中国を通じ日本へ入り、明治末期に日本でも板ガラスが生産されると、絵が外気に触れないため色鮮やかさが維持できるので、当時の女性の拝み図に好まれた。

螺鈿技法とは、オウム貝、夜光貝、鮑貝、蝶貝などの真珠光を放つ部分を薄片にし、漆器・木地にはめ込んで装飾するものだ。

日本には奈良時代に唐から伝わった技法で、正倉院に多数所蔵されている。

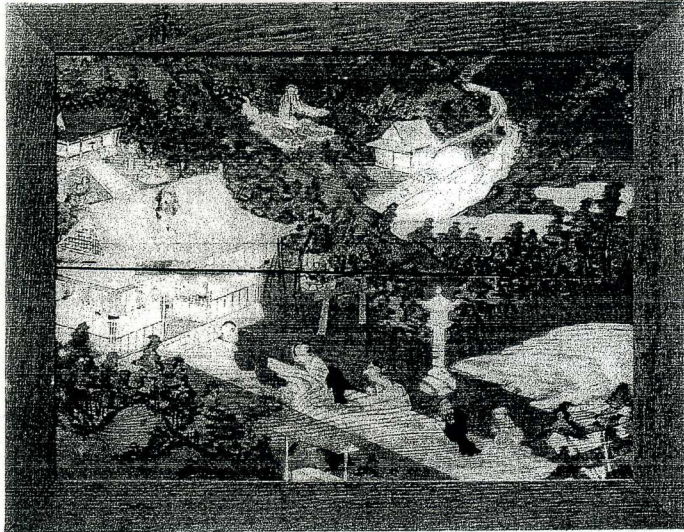
気になる 水車と「池」の存在

「寺川火災の図」 「鎮火お礼参りの図」

西本 重利（三箇在住）

明治一五年一二月三十
一日夜、当地寺川の油製
造業者の水車小屋から出
火しましたが、幸いに翌
元旦早朝までに鎮火。氏
神のご利益のおかげと、
お礼に、絵馬「鎮火お礼
参りの図」が奉納されま
した。

中央に雲に乗った神様
が描かれ、その下側には
川から引かれた水を、上
からかけて回す水車があ
ります。この水車は、後
に、どこを向いても菜の
花ざかり、と「野崎小唄」
になった菜種を粉砕する
したのかも、とも想像で
きる、当時の水車の姿を



「鎮火お礼参りの図」 大谷神社
大きさ 76・6×59 奉納年 明治16年1月吉日

描いたものとして貴重で
す。

火災の場合、当時で一
番頼りとされていたのが
龍吐水（水鉄砲）といわ
れるもので、オランダよ
り渡来したとも、長崎の
オランダ人が発明したと
もいわれています。江戸
時代後期より明治末期頃
まで使われ、当地では水
運を利用した田舟に乗せ
て使いましたが、使用に

わたしの気になる絵馬

は大勢の人力による水箱
への貯水が必要でした。
寺川の火災の場合、
「寺川火災の図」の中に
描かれていて、消火活動
の際使われたかもしれな
い「池」もしくは「堀」が
実際にあったかどうかで
す。あったとしたらどの
辺にあったのでしょうか。
明治初期の地図も探して

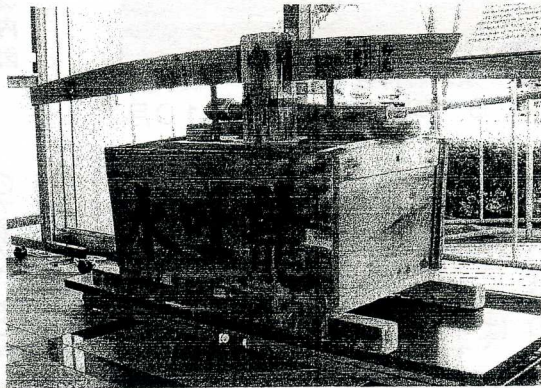
取り寄せ、確認しようと
したのですがとうとう果
たせず、地図の読み方も
拙い私にとっては力不足
で心残りでなりません。
一枚の絵馬もじっと眺
めてみると、いろんなこ
とが想像され、知りたく
なり、楽しいですね。

昔の消防事情

明治末期まで 活躍 オランダからの 「水鉄砲」 龍吐水

高見 庸子（太子田在住）

江戸後期から明治まで活
躍していた消火用具「龍
吐水」。近年まで出初め
式には出動していました。
大東市消防本部の1階に
陳列してあります。



寺川火災の図
鎮火お礼参りの図
大谷神社

想像してみよう。
明治初期の山里の
風景を。

野放図に茂った
草木、森、山陰に
見える社寺の瓦屋
根。土蔵造りの酒
蔵。庄家の他は
ほとんどが草葺き
屋根の土間と二間
ほどの板敷き家居。
油の火がゆれ、一
旦出火すればどの
ように対応したの
であろうか。

ドンゴロスや棒で叩き
消す。延焼を免れるよう
に窩口で打ち壊すしかな
かった。他に道具として
梯子、指又、水籠、くま

で、うちわ等が利用され
たようだ。中でも最たる
利器が龍吐水（水鉄砲）
である。

普通なら見過ごすであ
ろう「絵馬」。今回その
多くを目にする。多種多
様。神社と氏子との結縁
を深く感じる。中でも我
市の近い昔、（明治十六
代である。

（次頁に続く）

